

しなやかな感性を活かす教育と伝統で 人の一生を支える専門職を育て続ける

東京家政大学 / 東京家政大学短期大学部

Tokyo Kasei University

137年前から力を注ぐ 女性の「自主自律」

「新しい時代をつくるには、独り立ちができ、社会に貢献ができる女性を育てる必要がある」。校祖・渡邊辰五郎氏が「自律して生きる女性」育成の重要性を唱え、東京家政大学の前身となる「和洋裁縫伝習所」を創設したのは1881（明治14）年のこと。それはまさに、女性のキャリア教育の先駆けであった。

裁縫という自ら生計を立てられる技術だけでなく、読み・書き・算術などの教養教育も当初より行われ、女子の自律への力と意欲を育んできた。渡邊氏が提唱した「自主自律」の精神と「女性の専門性を高める教育」は、創立から137年を経た現在まで脈々と受け継がれている。

日本における女性の社会進出度は、世界的に見ればいまなお低い水準が続く。そうした社会状況にあっても、高い専門性と教養を身につけた10万人超の卒業生は社会のさまざまな分野で活躍し、女性の生きる道をしなやかに切り拓いてきた。そしていまも、新しい時代をつくる新しい女性のありかたを、東京家政大学は自らに問い続けている。

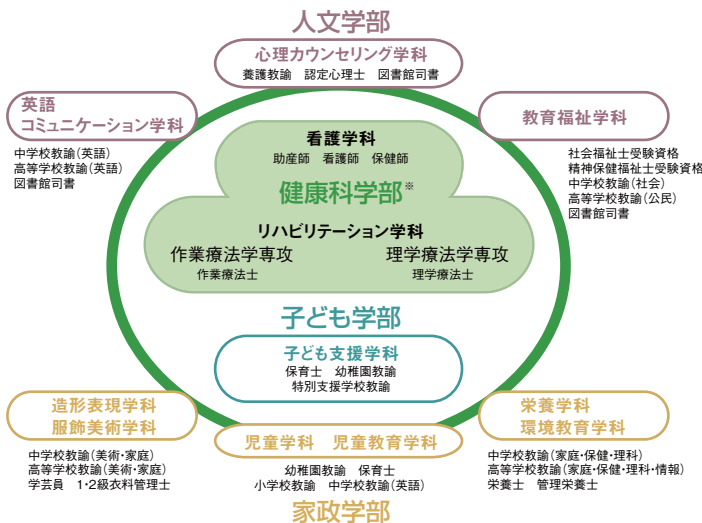
「生きる」に寄り添い、支える スペシャリストを育てる大学

大学名にもある「家政学」とは、人間の生活全般を支える学問のこと。どうしても家庭生活が中心となる印象は強いが、その学びや研究の対象となる範囲は幅広く、社会に開かれた学問領域である。この世に

生まれ、学び、働き、家族を育て、老いて、やがて人生を終えるまで。家政学は、さまざまなライフステージを支え、人の生に関わっていく、まさに「生きる」に寄り添う学問でもあるのだ。

専門知識を備えたスペシャリストの需要は、どの業界でも高まる一方だ。東京家政大学では、社会が求める専門職の領域の広がりや敏感にキャッチし、学問や専門分野の充実に図りながら、そのニーズに応える学びを提供してきた。そのため、どの学部・学科においても、時代と学びに即した専門性の高い免許や資格を取得することができ、子どもから高齢者まで、あらゆる人々の人生を支えるための学びが揃う。東京家政大学は、時代とともに進化し続けてきた大学なのである。

人の一生を支える学びと仕事の分野をカバーする学部・学科が揃う



※2018年4月改組

創立から137年。いち早く女性のキャリア教育に取り組み、時代のニーズに即したスペシャリストを養成してきた東京家政大学。専門性と女性のしなやかな感性を高める教育の源流と、時代とともに発展し続ける学びに迫る。

取材・文／草薙敦子

学生時代に自然と身についたことが、私の基盤になっています



1997年家政学部児童学科卒業
東京家政大学附属
みどりヶ丘幼稚園勤務
本村 真弓さん

私は東京家政大学板橋キャンパス内にある附属幼稚園に勤務しています。ここで幼稚園教諭として働く中で、私が持っている子どもたちに対する意識というのは、大学で培われたものが基盤になっているということを実感しました。研修などで、他の幼稚園の先生と接する機会が増えるにつれ、自分の中に根づいているもの大きさに気づくことが多いのです。大学時代、今に生きる創造力や多くの引き出しを作ってくれたのは、前学長である川合先生の「児童学実習」でした。これは、子どもたちを学校に招いて自分たちで苦勞しながら作った保育計画を実践していくという、学生自身が主体的に行う授業です。保育の現場で「遊び」を通して子どもたちの成長を支えていくには、定型なことだけでなく、子どもたちの状況に合わせて保育を組み立てていくというクリエイティブな要素が必要です。この授業で試行錯誤したことはまさしくそのプロセスを実践することでした。この子どもの反応を見ながら適切な保育を展開するというプロセスは、今もやり続けている私自身の保育の基本です。他にも、子どもたちの内面を見ていくことの大切さや、「人を大切に思う気持ち」を子どもたちに芽生えさせるにはどうすればいいかなど、大学で学んだことが、いろいろなところに生きていますと実感しています。



池袋・新宿・渋谷からも近い板橋キャンパス。緑豊かで広大なキャンパスは、充実した設備が整った理想的な学びの空間。

大学全体がカバーする専門分野は、教育、保育、栄養、環境、服飾、造形、英語、心理、福祉、看護と多岐にわたる。2018年には「リハビリテーション」がここに加わった。超高齢社会に突入し、医療や介護の需要が増え続けるこれからの時代に、リハビリテーションの専門職である作業療法士と理学療法士が担う役割は大きい。大学では、今年4月に健康科学部リハビリテーション学科を新たに開設し、作業療法学専攻と理学療法学専攻を設置。ここからだ、生活に障がいがあっても、その人らしく生活することができるよう支えていくセラピストの養成を目指す。

狭山キャンパスには、健康科学部看護学科（看護学部より改組）、子ども学部子ども支援学科も配置されており、基礎学習の段階から3学科共通や合同の授業も設定されている。また、キャンパスは地域に開かれ、小児科クリニックや保育所、障がいのある子どもたちが活動する放課後等デイサービスなどの施設も併設。学科や専門領域の垣根を越え、お互いの職業の特性を把握しながら共に学ぶことも、実際の現場で知識や技術を学び、責任感を養うこともできる環境が狭山キャンパスに整備された。こうした環境の面から、近年ニーズの高まる小児領域のリハビリテーションの人材育成にも期待を寄せられている。

女性のあり方も学びも時代とともに変化し続ける

「新しい時代に即応した学芸技能に秀でた女性の育成」という理念の下、東京家政大学が貫いて育てるのは、高い専門性と女性のしなやかな感性を活かし、人々の幸せや豊かな生活に貢献できるスペシャリストである。4学部12学科と短期大学部2科には、いずれも人の一生を支える学びや研究があり、人の一生に関わる仕事につながっている。これからも東京家政大学は、変わりゆく時代のニーズに応え、発展しながら、常に新しい女性のあり方を広く社会へ提示していく。

Information

東京家政大学／東京家政大学短期大学部



1881年設立の「和洋裁縫伝習所」を前身として1949年創立。東京・板橋キャンパスに家政学部(6学科)と人文学部(3学科)の2学部、短期大学部(2科)を持つ。2016年度より埼玉県の狭山キャンパスに看護学部と子ども学部の2学部2学科を開設。2018年4月には看護学部を改組して健康科学部(看護学科・リハビリテーション学科)を開設した。(上記写真は狭山キャンパス。広大で緑豊かな落ち着いた環境。)

● DATA

東京板橋区加賀1-18-1／埼玉県狭山市稲荷山2-15-1
TEL 03-3961-5228 (アドミッションセンター)
URL <http://www.tokyo-kasei.ac.jp/>